

河東 碧梧桐(かわひがし へきごとう)

資 料

短冊『酔うて もたれて 正月の屏風 碧』(絹本)
・大正7年に詠まれた自由律俳句。『八年間 碧梧桐句集』(玄同社
1923)所収。

作 者

1873(明治6). 2. 26－1937(昭和12). 2. 1
愛媛県松山市生まれ。
同級生の高浜虚子とともに正岡子規から俳句の指導を受
ける。子規の没後、新聞「日本」の俳句欄の選者を引継ぐ。
明治38年頃から新傾向俳句運動をおこし、季題と定型に
とらわれない自由律俳句を詠む。

参考文献

『碧梧桐全句集』(河東碧梧桐／著 蝸牛社 1992. 4
[県立 911. 36／606 (20460200)])
『河東碧梧桐の基礎的研究』(栗田靖／著 翰林書房 20
00. 2 [県立 911. 36KK／756(21371026)])
『河東碧梧桐全集(全20)』(河東碧梧桐／著 短詩人連
盟河東碧梧桐全集編纂室 2001～刊行中
[県立 918. 68PP／187／1－20])

